

平成29年度第4回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会(紀北会場)

- 1 日時：会場 平成29年9月11日(月) 13:30～16:30 岩出市総合保健福祉センター
- 2 参加者 市町村教育委員会きのくにコミュニティスクール担当者
教育関係者 県立学校関係教職員 共育コーディネーター 等
合計 68名
- 3 内容

◆講演「学校運営協議会の実際と学校・家庭・地域の変容」 ～美加の台中学校区と全国の事例から～

文部科学省 CSマイスター

大阪府美加の台中学校区 ゆめ☆まなびネット

学校支援コーディネーター・学校運営協議会

副会長 大谷 裕美子 氏

○学校を核に地域の絆を育む

コミュニティ・スクールは、今取り組んでいることをさらに充実させるため、学校・家庭・地域が同じ目標に向かって取り組んでいくこと。

(例) 美加の台学園祭

(学校を中心に地域の防災を考える取組)

切り干し大根プロジェクト

(給食の残食減少に向けた取組)



○学校と地域のつながりづくり

- ・ 取り組む「仕掛け・きっかけ・声かけ」→学校運営協議会で協議をする。
- ・ (顔を合わせる、思いを共有する、考えを伝え合う、励まし合う) 場面の設定
 - 居場所づくり
 - 出番づくり
 - フィールドづくり

○地域のたくさんの大人との出会いが心豊かな子供を育てるきっかけに！

◆実践発表

「特別支援学校における学校運営協議会の取組」

～こんないいことありました！～

京都市立西総合支援学校 校長 富家 直樹 氏

○京都市立西総合支援学校における2つのコミュニティ

- ・ ローカルコミュニティ
(学校がある地域と子供たちが暮らしている地域の人々の集い)
 - ・ テーマコミュニティ
(校区に限らず、障害のある人たちが住みやすい街づくりを目指す人々の集い)
- 双方向の援助が新しい地域の創造につながる。

○地域とともにプロジェクト

- (居住地域で)
 - ・わくわくクラブ
 - ・にこにこクラブ
- (学校で)
 - ・芝生まつり
 - ・校区地域交流会
 - ・啓発リーフレットの作成



◆グループワーク「コミュニティ・スクールとして ①地域にお願いしたいこと ②学校が子供にできること ③共にできること ④特別支援学校と小学校・中学校・高等学校が連携して取り組めること」

◆質問コーナー

グループワークでの意見

- ①学校に来ていただくボランティアの要請は地域にお願いをしたい。
- ②学校で子供たちが安心・安全に過ごせるように取り組んでいく。
- ③PTAの役割と類似している部分が多いと感じる。これまでは、皆で一緒にという雰囲気になっていなかった。子供を巻き込む活動に広げていきたい。
- ④学校間の距離が離れていると難しい面もあるが、地域の防災活動から取り組めるのではないだろうか。

会場からの質問

○コーディネーターの人選・役割について

コーディネーターは、多くのネットワークを持っており、学校のことを好きになってくれる人が適任である。また、実際に動いてくれる人に依頼をすることが大切である。

コーディネーターは学校と地域のクッション的な役割であり、相互の思いの食い違いを汲み取るフィルター的な存在である。

○管理職は数年で異動するが、学校運営協議会委員と管理職との信頼関係のポイントは？

異動していない職員が新しい管理職と学校運営協議会委員をしっかりとつなぐことにより、これまでの取組や変容などについて共通認識ができる。さらに、異動してきた管理職が、地域の人を知る機会やコミュニケーションの機会を作ることが大切である。

4 参加者の声（アンケートより）

（共育コーディネーター・学校運営協議会委員）

- ・先進的な取組を行っている学校の話聞かせていただき、学校運営協議会のことよくわかった。そんなに難しく考えなくてもいいと思った。

（小中学校教職員）

- ・来年度からコミュニティ・スクールを実施するにあたり、多くのことを学んだ。まずは現在行っている共育コミュニティの活動を生かしながら、協議会の人材を探すことから始めたいと思う。